

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.4をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

今回は、「世代をつなぐまちづくり」の一環として、町内の各学校との連携による取り組みをご紹介します。あわせて、現在進行中の関連事業についてもお知らせします。

特集① 子どもたちと共に進める まちづくりの取り組み

◆ 隠岐高校商業科 まちづくり班がつくる うみやまもつと広場のにぎわい

隠岐高校商業科3年生の課題研究授業における「まちづくり班」と連携し、うみやまもつと広場の魅力向上を目的とした活動を実施しています。課題研究は、生徒自らが課題を設定し、調査・実践・制作等を通じて解決に取り組む授業です。「まちづくり班」では、西郷港周辺のにぎわい創出をテーマに、うみやまもつと広場を拠点としたイベント企画などを通じて地域の活気につなげる取り組みを進めています。

令和7年度の1学期には、「うみやまもつと広場華やか大作戦」と題し、廃材パレットを活用したベンチのペイントイベントを実施しました。地域の子どもたちと協力してペイントを行い、広場に彩りを加えるとともに、屋台も出店し多くの来場者でにぎわいました。



7月5日に開催した「うみやまもつと広場華やか大作戦」の様子



完成した広場の様子

2学期には、1学期に制作・設置したベンチを活かして、広場のさらなる活用につながる「西郷港まちづくりフェス2025」の開催を予定しています。本イベントでは、ゲーム大会への参加者だけでなく、来場者全体が楽しめる企画を通じて、地域のにぎわいづくりを目指します。

「西郷港まちづくりフェス2025」

日時：令和7年11月15日（土）10:00～14:00
 内容：マリオカート8 デラックスゲーム大会（トーナメント制）
 対象：小学生、中学生、高校生から大人まで幅広い世代
 その他：ゲーム体験コーナー、屋台出店等を予定しています
 詳細は役場ホームページまたは都市計画課Instagramをご確認ください



イベント企画会議の様子

うみやまもつと広場を笑顔のあふれる集いの場にします！



まちづくり班メンバー

◆ 隠岐水ラーメンの味を西郷港周辺へ

隠岐水産高校海洋生産科3年生が、授業の一環として、地元の水産物を活かしたサバ出汁の「隠岐水ラーメン」のレシピ考案に取り組んでいます。令和7年7月にはうみやまもつと広場で試食販売などの活動も行われました。

町では、こうした高校生の学びを地域資源の一つとして捉え、西郷港周辺の空き家利活用事業（※裏面参照）との連携の可能性について検討を進めています。飲食店の減少という地域課題に対し、高校生のアイデアが新たなにぎわいづくりにつながることを期待しています。



7月5日開催「うみやまもつと広場華やか大作戦」の様子

◆ 隠岐養護学校と考える「海見える交流館」の使い方

隠岐養護学校とは、「海見える交流館」の今後の活用について意見交換を進めています。「生徒たちが制作した製品の販売」や「カフェのような場づくり」などのアイデアが寄せられており、今後の展開に向けて一緒に可能性を探っているところです。これまでも、意見箱の制作や、「西郷港まちづくりフェス2024」イベント開催時にパウンドケーキを提供していただくなど、まちづくりの活動にご協力いただいています。

◆ まちを歩き、まちを描く 小中学生のまちづくり授業

地域への愛着を育み、未来のまちづくりを担う力を育てることを目的に、毎年「まちづくり授業」を実施しています。学校と連携し、子どもたちが自分たちの暮らすまちを多角的に見つめ、考える機会を作っています。

昨年度は、西郷小学校と西郷中学校で防災とデジタルをテーマにした授業を行いました。授業では、子どもたちが通学路を歩いて、段差や溝、倒れそうな塀など災害時に危険となる場所を調査し、写真や位置情報をタブレットで記録しました。調査した情報は、子どもたち自身がパソコンを使って整理し、ウェブツールを活用して地図にまとめました。

こうして完成した「デジタル防災マップ」には、子どもたちが見つけた危険箇所と、浸水区域や土砂災害警戒区域などの災害リスクが重ねて表示されます。地図を見ながら避難ルートを検討することで、災害時の行動を具体的にイメージするきっかけになりました。



フィールドワークの様子



地図作成の様子



完成したデジタル防災マップ

子どもたちの作ったデジタル防災マップは以下のURL および二次元コードから閲覧することができます。

okinoshima-bousai.reearth.io



※デジタル防災マップは画像や情報量が多いため、通信環境が良い場所での閲覧を推奨しています。

今年度は、「まちのしごとくらしマップ」と題し、地域で働く方々への取材を通じて、子どもたちが将来の自分と地域社会とのつながりを想像する力を育てます。発表会では、仕事の内容や風景を直感的にイメージできるマップを活用予定です。

各学校との取り組みの様子は、都市計画課Instagramでも紹介しています。授業の雰囲気や子どもたちの活動の様子をご覧いただけます。今後の取り組みも順次発信してまいります。



都市計画課 Instagram

特集② 西郷港周辺まちづくりに関連する事業のご紹介

「うみまち通り」の設計をおこなっています

実施事業者：株式会社ワールド測量設計

フェリーターミナル前の国道485号の一部を「うみまち通り」として整備する設計業務を進めています。この通りは海とまちをつなぐ象徴的な空間として位置づけられ、沿道に新築される建築物と一体となって通行者が日常や待ち時間を快適に過ごせる“みち広場”となります。

整備では歩道の拡幅を中心に、歩行者にとって魅力的な空間づくりを進めます。歩道の整備は島根県が担当し、舗装や景観整備などの美装化は町が担当します。

令和9年度の整備に向けて地域の皆さまに親しまれる空間づくりを目指します。

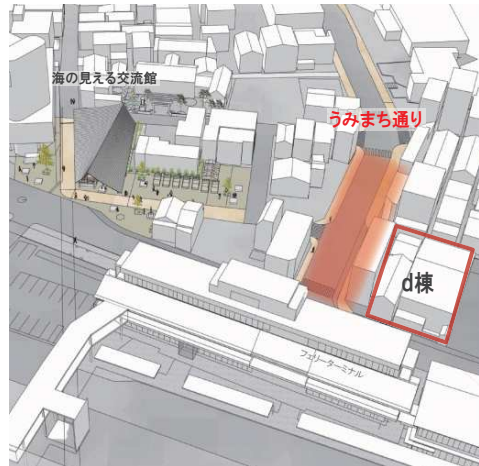
「うみまち通り」の社会実験をおこないます

実施事業者：株式会社アテナ

「うみまち通り」の整備に先立ち、今後の空間利用や交通環境の変化を事前に確認するための社会実験の実施を検討しています。この実験では、国道485号の一部において車線を一時的に狭めることで、歩道空間の拡張を仮想的に再現し、以下の点から検証を行う予定です。

- 歩道空間を活用したイベントや日常利用の様子
- 車両の通行速度や交通への影響
- 空間の使い方に関する住民の印象や課題の把握

本実験は「うみまち通り」が地域にとってより良い空間となるよう、地域の皆さまに整備後のイメージを共有するとともに、課題の洗い出しを目的としています。現在は実施内容や時期などについて検討を進めている段階です。詳細が決まり次第改めてお知らせいたします。



整備計画図

「海見える交流館」と周辺広場の設計をおこなっています

実施事業者：河内建築設計事務所

「海見える交流館」は、建物と広場が一体となって海へとひらける空間となるよう計画しています。

1階には飲食を中心とした民間事業者による商業スペースを設け、2階には子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できるインクルーシブな交流施設を整備します。

本施設の整備は、町と民間事業者が連携しながら、地域のにぎわいと交流の場づくりを進めています。



最新イメージ図

大城山避難路の歩きやすさ向上に向けた設計をおこなっています

実施事業者：有限会社互大測量設計

大城山への避難路は、西郷小学校の通学路としても利用されています。これらの道は道幅が狭く段差も多いため、安全性や歩きやすさに課題があることから、より歩きやすい道となるよう整備に向けた設計を進めています。



設計をおこなう路線

地域拠点「d棟」の整備に向けて 民間事業者との連携を探る調査をおこないます

実施事業者：株式会社エイト日本技術開発

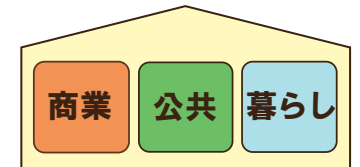
西郷港周辺まちづくりの拠点の一つとして整備を進める「d棟（まちづくり交流支援センター）」について、事業者参画に向けた調査をおこないます。

昨年度には、町内事業者を対象にアンケート調査および聞き取り調査を実施し、施設の整備・運営に関する意向を確認しました。その結果をふまえ、今年度は町外の事業者も対象に、参画の可能性を探る調査を進めます。

今回の調査では、町外事業者の参画によって地域にもたらされる効果（経済効果や地域内調達率など）を整理し、持続可能な運営体制の構築に向けた検討を進めます。



整備位置図



d棟の構想イメージ図

この施設には、民間事業者が整備する建物の一部に町の交流機能などを設ける予定です。公と民が連携し、地域のにぎわいにつながる空間づくりを目指します。

西郷港周辺の空き家利活用に向けた調査をおこないます ※

実施事業者：一般社団法人隠岐まちづくり研究所

西郷港周辺には長らく使われていない空き家が点在しています。こうした空き家を地域資源としてとらえ、まちのにぎわいにつなげる可能性を探るための調査を実施します。この取り組みでは、事業展開を希望する事業者に向けて、店舗として活用できる物件を調査し、新規店舗の出店を試す実証実験（チャレンジショップ）もおこないます。空き家をチャレンジショップとして活用することで、地域に新たな動きが生まれます。さらに出店希望者にとっても事業の可能性を試す機会となることが期待され、新たな担い手の創出にもつながります。

今回の調査では空き家の状況や所有者の意向、出店希望者のニーズなどを整理しながら、利活用の可能性を探ります。



空き家をチャレンジショップとして活用
→ 西郷港周辺の にぎわいを創出

隠岐の島町景観計画の策定が始まります

実施事業者：株式会社エブリプラン

隠岐の島町では、大山隠岐国立公園や隠岐世界ジオパークに認定された美しい自然、歴史的建造物、文化的な町並みなど、地域ならではの景観を大切に守り育てていくため、「景観計画」の策定を進めています。この計画では、新しく建てられる建物のデザインや広告物の配置など、景観に影響を与える要素について区域ごとにルールを定め、調和のとれたまちづくりを目指します。来年度末の計画策定に向け、10月から町内各地区で住民説明会をおこなっています。

次号予告

9月27日（土）、28日（日）に開催した、海見える交流館周辺整備に関するワークショップの模様をお知らせします。発行は11月中旬を予定しています。